

野付 祐司さん
Yuji Notsuki

〔甲佐町役場 建設課〕

鹿児島県出水市出身。
昭和53年に出水市役所に入庁。
市役所では税務、財政、下水道
などの業務に従事。
趣味はドライブ。甲佐町で妻と
2人暮らし。

「まだ役に立てるかもしれない」 派遣から留任を選んだ職員の挑戦

穏やかな表情で住民に耐震
改修補助制度についての説明
を行っているのは鹿児島県出
水市出身の野付祐司さん。
過去に出水市で発生した大
規模な土石流災害の復旧事業

に携わった経験を生かし、熊
本地震からの復興を支援する
ため、平成30年4月に出水市
から、震災後の甲佐町で復旧・
復興のための派遣職員として
甲佐町に赴任してきた。その

動機を次のように語る。「震
災直後、町職員は自身も被災
者でありながら、被災された
住民の思いに寄り添いながら
早期の復旧復興を目指してい
ると聞いて、自分の経験や知
識が少しでも町の皆さんの力
になればと思い、派遣を志願
しました」
野付さんは着任と同時に甲
佐町での生活をスタート。仮

設住宅に暮らす人たちの声に
丁寧な耳を傾けつつ、再建が
思うように進まない人たちの
苦悩や要望に対応してきた。

令和2年に派遣期間は終了
したが「まだ町の役に立てる
かもしれない」と考え、甲佐
町に残ることを決意した。帯
同していた妻にとっても大き
な決断となった。野付さんの
強い思いに家族も同意した。

派遣から7年となる今も、
建設課の任期付職員として町
の安全管理に携わる野付さん
の業務は多岐にわたる。宅地
復旧支援事業をはじめ、住宅
の耐震改修に関する補助、道
路整備の補助などの申請や交
付手続き、町道や水路の工事
に関する事務を担当しており、
町全体の安全性向上に
日々努めている。

「公費補助があることで個
人の負担が軽減され、災害対
策に取り組みやすくなりま
す。個々の取り組みが進むと
地域の安全性が高まり、災害
時の被害も抑えられます」と
野付さんは、一人ひとりが災
害対策を進めることの大切さ
を強調する。

町建設課の志戸岡弘課長は
「震災対応で職員が疲弊して
いる状況のなか、野付さんの
存在は心強かった。7年間と
いう長い間、被災された町民
に寄り添った対応や、これま
での経験を生かされ町職員へ
アドバイスをされている姿を
見て感謝しています」と話す。

野付さんに今の町の印象を
尋ねると「緑川沿いに新しく
完成した熊本甲佐総合運動公
園を目にすると感慨深いもの
があります。何もなかった場
所にこんな立派な施設ができ
たのは、復興の象徴だと感じ
ます」と語ってくれた。お気
に入りは乙女河原に無数の灯
りが灯るテントの風景。「川
沿いの景色を眺めると、この
町は昔から緑川とともに歩ん
できたのだなと感じます」

これまでの7年間を振り返
って「町の職員として、少し
でも住民のみなさんの支えに
なれたのなら嬉しい。お世話
になっている甲佐町のため
に、これからも自分ができる
ことを続けていきたい」と話
す野付さんのチャレンジはこ
れからも続く。